

1、目指す学校像 一人ひとりを「特別な存在」として大切にせる教育

2、重点目標

1) 学校全般

○建学の精神を支える「正・浄・和」の「明の星教育」を中高一貫教育の中で実現する。

校訓「正・浄・和」の中でも、今年度は特に「正」についての考えを深め、「ほんとうの私を生きる」「使命を生きる」とはどのような事かを、様々の実践へとつなげていく。

校長からの「手紙」という形で行ったアッセンブリの内容は、常に今年度の実践目標を生徒達に意識づける内容であり、理解をしやすい具体的な例を提示した。

そして個々が、それらを手がかりとし毎日の学校生活の体験と重ね合わせながら「ほんとうの私を生きる」事の大切さ、意味の深さの理解に努めていった。

今年度もコロナ禍において、特に物理的な距離を超えた中での「私を生きる」を意識し理解を深めていった。アッセンブリのみならず、毎朝の朝礼の話の中でも、事あるごとに「私を生きる」に触れ、言葉だけの理解に留まらず、生徒達の実感としての「私を生きる」の理解が深められた。

＝達成度 A

2) 教育

○中高一貫教育の中で、生活指導・進路指導の徹底をはかる。

充実した指導と共に、学びの中から生まれる喜びや発見が、自らの心の豊かさ、向上につながるよう指導。また明の星での6年間を終えた後も、「最善の私」としての生き方を追い求める学びの素地を創る。

大学進学に特化した進路指導ではなく、常に自己の内面と向き合い「最善の私」としての歩みの実現を助ける進路指導を行う。

生徒達の学力定着、伸張を図る学習指導、学習到達目標達成および大学入試、志望進路にむけた、日々の具体的学習指導を行った。

また、生徒との細やかな面談を行い、学習状況および自己実現に向けた志望進路を把握する事に努めた。

各教科の教科会等でより良い授業作りの研究、さらに研修会への参加等により研鑽を積んだ。

教員による学習到達目標に対する授業評価は、概ね良好。志望の進路決定に関しても、多くの生徒達が真の自己実現に向けた選択を行う事ができた。

=達成度 A

3) 広報

○明の星教育を広報する方法を確立する。

明の星の目指す教育内容を、幅広く多くの人に広報する。

教員一人ひとりが明の星教育を理解し、教員が一体となって広報活動に努める。

入試広報業務の改善、再検討を行う

学校見学会、学校説明会の実施。学校紹介パンフレット・新聞・DVDの作成。中学校フェア等への参加。

社会の現状に合わせた入試広報、入試業務への変更、その確立。

コロナ禍において、学校見学会、学校説明会には予約制を導入、実施回数を増やす等実施の工夫を試みた。それらが無事に実施され、校長により明の星教育について広報する事ができ、ほぼ例年同様の入学出願者を集める事ができた。

=達成度 A

4) 財務

○安定した財務管理

計画的な財務の確保を継続する。

創立60周年行事等を踏まえた財務管理。

計画性のある予算の組み立ての中から、その都度の必要性に応じ、確実な予算執行が行われた。

=達成度 B

2021年度学校関係者評価

浦和明の星女子中学・高等学校

学校関係者評価委員会

日 時 2022年3月31日

関係者 学校関係 : 校長 高校教頭 中学教頭 事務長
正和会 (保護者会) : 会長、副会長3名

※ 書面にて実施

○教育方針・教育環境について

授業に関しては、教科書の内容を超えたプリント学習により、深く幅広く学ぶ事が出来、充実していた。

また、希望者にむけてのオンライン授業の対応にも感謝したい。一方で、ITの導入の遅れを感じる部分もあった。

しかしながら、先ず生徒の心身の健康と安全を第一に考えた学校の対応、配慮を感じ、安心して通わせることが出来た事に感謝したい。

○その他意見・要望

教科の内容に関して、理系への進学を志望する生徒の増加傾向に合わせ、早い段階から理数系科目をより高いレベルへと引き上げて欲しい。また、学校生活の点からは、コロナ禍という事で、多くの学校行事が中止となってしまったが、コロナ禍が当たり前の事として、生徒の心身の成長、充実した学校生活となるよう、より良い計画を立てて欲しい。

オンライン授業を行っていた際、一度オンライン授業か学校での対面授業かを選んでしまうと、その授業方法の変更が出来なかった。従って、期間を指定する等の方法を取り入れ、生徒各々がコロナの感染状況を鑑みながら登校するか否かを決められれば、より良かったのではないかと。

補習の必要がないほど、深い内容とレベルの高い授業をして下さる先生方に感謝している。コロナ禍の授業方法については、もう少し生徒に寄り添った対応をしていただける事を願う。

2021年度 浦和明の星女子中学・高等学校 第三者評価

1. 学校全般

○建学の精神を支える「正・浄・和」の「明の星教育」を中高一貫教育の中で実現する。

今年度は特に「正」についての考えを深めた。校長からの「手紙」という形で行ったアッセンブリは、実践目標について理解しやすい具体例となった。それらを手がかりとし毎日の学校生活の体験と重ね「ほんとうの私を生きる」事の大切さ、意味の深さの理解が深まった。また今年度もコロナ禍による物理的な距離がある中で「私を生きる」を意識し理解を深めていった。アッセンブリに加え、毎朝の朝礼など、事あるごとに「私を生きる」に触れ、言葉以上に実感として「私を生きる」の理解を深めることができた。

2. 教育

○中高一貫教育の中で、学習指導・進路指導の徹底をはかる。

充実した指導と共に学びの中から生まれる喜びや発見が「心の豊かさ・向上」につながるよう指導し、卒業後「最善の私」としての生き方を追い求める学びの素地を創れている。大学進学に特化せず、常に自己の内面と向き合い「最善の私」としての歩みの実現を助ける進路指導を行っている。学力定着、伸張を図る学習指導、学習到達目標達成および大学入試、志望進路にむけた、日々の具体的学習指導を実施、生徒との細やかな面談で学習状況および自己実現に向けた志望進路を把握している。教科会等でより良い授業作りの研究、さらに研修会への参加により研鑽を積んでいる。教員による学習到達目標に対する授業評価は、概ね良好で志望の進路決定に関しても、多くの生徒達が真の自己実現に向けた選択を行えている。

3. 広報

○明の星教育を広報する方法を確立する。

明の星の目指す教育内容を、幅広く多くの人に広報することを主眼に教員一人ひとりが明の星教育を理解し、一体となって広報活動に努めている。引き続き入試広報業務の改善、再検討を行っている。学校見学会・説明会の実施、学校紹介パンフレット・新聞・DVDの作成、中学校フェア等への参加を実施。社会情勢に合わせて入試広報・業務変更を行っている。コロナ禍において、学校見学会、学校説明会には予約制を導入、実施回数を増やす等実施の工夫を試みた。それらが無事に実施され、校長により明の星教育について広報する事ができ、ほぼ例年同様の入学出願者を集める事ができた。

4. 財務

○安定した財務管理

計画性のある予算の組み立ての中から、その都度の必要性に応じ、確実な予算執行が達成された。

以上